

C I L新潟 報告 3月18日

とん所さん、丸山さんと話し合い

八幡より福島の様子について状況報告。

その後、新潟の様子について

前回の新潟への地震の経験もあり、福島から脱出する人のために3ヶ所ほど住む所を確保した。ケアステーションゆうとぴあの4人について明日代表の鈴木さんと面会予定。

今朝、鈴木さんより連絡があつて、昭和村白かば荘より新潟のホテルに移動したいとのこと。

行政的には、新潟の体育館を確保し、被災地より600名の受け入れを予定しているとのこと。

今後の課題として、新潟は緊急車両の許可証があれば高速を使って2時間で郡山、4時間半で仙台へ行けることから、物資供給の基幹的な場所となること、また福島県内の被災者や原発事故を心配する人たちの県外退避の場所としても重要な位置であることから、それらのコーディネート、相談等が増えることが予想され、そのことに対応できる体制が必要と確認。被災地のバックアップとして、C I L新潟としては、現在年度変わり2月の社会福祉法人化に伴い、内部で被災地支援に当たれる人がなく、増員に対する支援をゆめ風に求められた。

その他、滋賀ポテトファーム

17日の第一次物資運搬に続き、19日に代表佐野さんともう一人が第二次物資運搬出発。今回は前回足りなかったALS患者の医療材料とガソリンを運ぶことが主な役割。

医療材料については、数ヶ所に声をかけたため、長浜の作業所にさらに物資が届けられている。

看護協会が動き出したこともあり、役割を終えたのではないかとポテトファームの教野さんより連絡があつた。その後バクバクの会の折田さんより被災地でニーズがまだあり、今後も物資の運搬を続けてくれるか問い合わせがあつた。

教野さんの話によれば、必要があれば何度でもいくとのこと。ただ関西として交通整理をきちんとし、無駄なものがどんどん届けられることは避けてほしいとのことでした。

また、病院で買いつけた医療材料の費用などは、ゆめ風より支援してほしいとのことでした。